

30年12月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 12月1日～ 30年12月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/12月	31/1月	2月
仕入動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 37.5	△ 37.5
	外材製材品	△ 25.0	△ 31.3	△ 37.5
	構造用集成材	△ 21.4	△ 28.6	△ 35.7
消費動向	国産材製材品	△ 25.0	△ 31.3	△ 37.5
	外材製材品	△ 18.8	△ 31.3	△ 31.3
	構造用集成材	△ 14.3	△ 35.7	△ 28.6
在庫動向	国産材製材品	△ 12.5	△ 25.0	△ 25.0
	外材製材品	△ 12.5	△ 12.5	△ 25.0
	構造用集成材	0.0	△ 14.3	△ 21.4

・プレカット加工用部材の仕入、消費動向は国産材、外材製材品、構造用集成材とも3カ月連続減少。

・国産材、外材製材品の在庫動向は3カ月連続減少。構造用集成材は12月の横ばいから1月、2月は減少に。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/12月	31/1月	2月
受注	△ 12.5	△ 37.5	△ 25.0
加工	△ 12.5	△ 31.3	△ 37.5
受注残	△ 6.3	△ 25.0	△ 31.3

・プレカット工場の受注、加工、受注残の動向は3カ月連続減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・仕入、消費、在庫動向ともすべてにおいて減少傾向。
- ・当月、外材製品が多めに入ってくるが、その後は予定通りの仕入になりそうだ。消費動向は当月のみやや増加、その後は減少の方向に向かっていくと思われる。在庫は当月がピーク、その後は減少へ。
- ・全国的には11月からプレカット工場の稼働率が上がっているようだが、当社は逆の状況で仕入、消費ともやや減少。原則在庫は持たない。

(受注動向)

- ・受注、加工、受注残ともすべてにおいて減少傾向。
- ・翌月、翌々月と受注数の減少をどれだけくい止められるかが課題。
- ・年明けから他社から溢れた仕事が回ってくる予定でやや増加。